

RSシリーズ比較表

2020年11月2日
株式会社トーキン

RSシリーズ共通の特徴

長さの異なる3種類のフレーム組合せにより、3.6[m]から1.2[m]単位で自由に全長設定が可能。
最長実績：全長40.8m、ストローク39.4m(2020年4月時点)

	特徴	積載重量[kg]	ケーブルベア位置	全幅[m]	速度[m/s]
RS1S	標準型スライダー 搭載ロボット:軽～中量級 上部歩行デッキ付	～1200	サイドベア	1.4	1.0～2.0
RS1H	標準型スライダー 搭載ロボット:中～重量級 上部歩行デッキ付	1200～3600	サイドベア	1.4	0.5～1.2
RS2S	標準型スライダー 搭載ロボット:軽～中量級 幅狭型※1(ケーブルベア一体型)	～1200	センターベア	1.0	1.0～2.0
RS2H	標準型スライダー 搭載ロボット:中～重量級 幅狭型※1(ケーブルベア一体型)	1200～3600	センターベア	1.0	0.5～1.2
RS3 ※2	小型スライダー 搭載ロボット:軽～中量級 極幅狭型※1(ケーブルベア一体型)	～1200	センターベア	0.75	1.0～2.0
RS4	M-710iC及び MOTOMAN-GP50専用機 両脇歩廊付き	～1200	センターベア	0.8	2.0
RS5	大型スライダー 搭載ロボット:重～超重量級	3600～5500	センター	1.8	0.3～0.75

サイドベアの特徴

LMガイドレール及びラック上部を、デッキ(カバーを兼ねる)が覆っており
上部からの防塵・防滴性に優れます。

デッキは、上部を歩行することができ、メンテナンス性にも優れます。

また、ケーブル収納容量を増加させることができます。

但し、センターベア型と比較して、設置面積を要します。

センターベアの特徴

スライダー内部にケーブルベアを配置しており、サイドベア型と比較して省スペースです。

但し、ケーブル収納容量の増加にはスペースの都合上限りがございます。

また、スライダー上部を歩行することはできません。

(RS4はセンターベア型でも上部歩行が可能)

注意

※1:RS1比

※2:RS3はケーブルベア選択、据付け等制限があります。

別途お問合せください。